

研究計画（2020年5月25日時点）

フルタイム換算の研究時間

W22: 33h, W23: 40h, W24: 40h, W25: 40h, W26: 40h, W27: 40h, W28: 35h, 計268h

テンプレートを作る(1h)

本稿・要旨を書く23pは書く(合計90h) (7月10日(金)13:00要旨提出〆切り,
7月24日(金)12:00 製本用の修士論文原稿提出)

はじめに(10h)

準備(20h)

分割CA, Janusなどについて

関連研究(20h) ※関連研究の調査を含む

過去に実現された方法について

実装(10h)

今回実現したプログラムについて

効率化(20h)

プログラムの効率化とその実装

おわりに(10h)

実装を行う(15h)

発表資料を作る, 発表練習をする(30h)

計画を立てる, 見直す(5h)

最終試験までの課題

1. 課題解決の考え方が説明されていない。なぜ、そのように考えたか、説明が必要。
2. 提案方法のJunusの拡張が可逆性を損なわないとの見通しの根拠の説明がない。delocalがlocalと対になって保証されないことは可逆性を損なう可能性があるのではないか？損なわれないための前提はないのか？
3. 今後の課題で提示した「1パスでクリーンな可逆シミュレーションの実現」の条件は何か？これを実現するための課題を説明しないと、今後の課題が課題の説明にはならない。
4. 先行研究の調査【重要】
5. 用語の定義（発表資料中でも）：クリーン